

皮膚科医に向けて、“シワを改善する” 医薬部外品の情報を提供
第116回日本皮膚科学会総会においてランチョンセミナーを共催
2017年6月4日(日)13:40~14:30 ・ 仙台国際センターにて

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：三浦卓士）は、6月4日に宮城県仙台市で開催される「第116回日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー24」において、「新規効能“シワを改善する”を取得した医薬部外品を知る」と題したセミナーを共催します。

同社は、昨年7月、シワを改善する効能・効果を有する「ポーラ リンクルショット メディカル セラム」の製造販売承認を取得しました。本セミナーで紹介される、史上初の「シワを改善する」新規医薬部外品成分 NEI-L1[®]_{※1} は、本年1月に株式会社ポーラより発売された薬用化粧品に応用されています。

※1：名称の由来：Neutrophil（好中球）、Elastase（エラスターゼ）、Inhibitor（阻害剤）、License（ライセンス）、1（第1号）

成分名：三フッ化イソプロピルオキシプロピルアミノカルボニルピロリジンカルボニルメチルプロピルアミノカルボニルベンゾイルアミノ酢酸ナトリウム

今回のセミナーでは、医薬部外品において“シワを改善する”という新規効能を許可されるに至った開発背景について、ポーラ化成工業株式会社 肌科学研究部長 横山 浩治、及び東京女子医科大学皮膚科学教室 川島 眞教授により紹介されます。

ランチョンセミナーを通じ、皮膚科医に向けて、新規医薬部外品成分を含む薬用化粧品の情報提供を行い、一層の認知拡大を目指します。同社は既に本年2月の日本皮膚科学会 東京支部大会および4月の日本臨床皮膚科医会において、ブース展示で情報提供を行なっております。今回、第116回日本皮膚科学会ではランチョンセミナーの共催に加えてブース展示も行い、今後更に、美容皮膚科学会(7/29-30)、皮膚科学会中部支部大会(10/7-8)、西部支部大会(10/28-29)でもブース展示を実施する予定です。

第116回 日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー24 概要

- ・開催日時：2017年6月4日(日) 13:40-14:30
- ・開催場所：仙台国際センター 第4会場 会議棟 2F 萩（宮城県仙台市青葉区青葉山無番地）
- ・テーマ：新規効能「シワを改善する」を取得した医薬部外品を知る
- ・座長：宮地 良樹先生(滋賀県立成人病センター 病院長)
川島 眞先生(東京女子医科大学 皮膚科学教室 教授)
- ・共催：ポーラ化成工業株式会社 / 第116回日本皮膚科学会総会
- ・演者及び講演内容：

LS24-1：化粧品の機能評価法 ー保湿化粧品と医薬部外品ー

横山 浩治（ポーラ化成工業株式会社 肌科学研究部長）

LS24-2：シワに対する新規効能取得までの旅路

川島 眞 先生(東京女子医科大学 皮膚科学教室 教授)

【本件に関するお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室

Tel: 03-3563-5540 / Mail: webmaster@po-holdings.co.jp

参考資料

・講演概要：

LS24-1：化粧品機能評価法 ―保湿化粧品と医薬部外品―

横山 浩治（ポーラ化成工業株式会社 肌科学研究部長）

概要；2006年、日本化粧品学会は、日本では効能表現として認められていなかった「抗シワ」に関する新規効能取得を目指し、抗シワ製品評価試験ガイドラインをまとめた。ガイドラインでは、化粧品と医薬部外品のそれぞれについて、期待される効果の考え方が示された。また、評価においては、シワグレード標準写真を用い、目視及び写真評価を実施し、機器測定によるシワ計測結果と合わせて有効性を判定する統一基準が設定された。科学的かつ客観的な本評価ガイドラインの策定により、2011年には化粧品の新たな効能表現として「乾燥による小ジワを目立たなくする」が追加され、2016年には医薬部外品に「シワを改善する」という新規効能表現が認められた。本セミナーでは、抗シワ効能取得に必須の有効性評価基準となる「新規効能取得のための抗シワ製品評価試験ガイドライン」について概説する。

LS24-2：シワに対する新規効能取得までの旅路

川島 眞 先生（東京女子医科大学 皮膚科学教室 教授）

概要；2016年7月、「シワを改善する」という新規効能を有する医薬部外品の製造販売が承認された。1980年に医薬部外品および化粧品の効能の見直しがなされ、医薬部外品の効能の一つであった「小じわ」が削除された。その際、「立証する資料が提出された場合には、検討の上、品目毎に当該承認に係る効能の可否を決定する」旨、記載がされていた。シワ改善効能を医薬部外品として立証するために必要なサイエンスの充実に、実に36年もの年月が必要であったことになる。その一つとして、目尻のシワを対象とした客観的な測定手法、有効性評価のための試験法に関するガイドラインが存在しなかったことが挙げられる。本セミナーでは日本化粧品学会が纏めた抗シワ製品評価試験ガイドラインに沿って有効性試験を行った医薬部外品成分 NEI-L1 が、「シワを改善する」という新規効能を取得するまでの旅路を紹介する。